

1 第2期能代市中心市街地活性化計画について

(1) 中心市街地活性化計画策定の経過

年度	項目	計画期間
19年度	中心市街地活性化ビジョン策定	20年度～30年度
20年度	中心市街地活性化計画策定（第1期前期計画）	21年度～25年度
25年度	中心市街地活性化計画後期計画策定（第1期後期計画）	26年度～30年度
29年度	後期計画の中間評価検証	

※第1期計画の際にはビジョン策定に1年、計画策定に1年の計2箇年かけているが、第2期計画については活性化施策を途切れなく進めていくために、今年度の1年間で後期計画の検証とビジョン策定、計画策定まで行う。

(2) 策定体制

- ①中心市街地活性化推進協議会・分科会を中心に協議を進める。（委員34名）
→最終的に市へ計画に関する提言書を提出する。
- ②庁内に、中心市街地活性化推進会議（市長、副市長及び部長級による。）、関係部長会議及び実務者会議（総合政策課、都市整備課、商工港湾課。必要に応じてその他の課も加える。）を設置し、協議を行う。
- ③市民意識等の調査、把握を行い計画に反映させる。
- ④第1期後期計画事業の検証結果を計画に反映させる。
- ⑤ビジョン及び計画は同時進行で策定する。

※平成29年度に実施した中間検証

後期計画掲載事業：50事業（内完了：8事業、未着手：2事業）

①必要性、継続性、今後の取組

- ・完了した8事業を除く42事業を「必要性あり」とした。
- ・完了した8事業及び未着手2事業を除く40事業を「継続性あり」とした。
- ・「継続性あり」とした40事業の今後の取組について11事業を「強化」、5事業を「強化若しくは維持」、24事業を「維持」とした。

②事業効果の評価

未着手2事業を除く48事業の事業効果を次のとおり評価した。

	大きな効果	ある程度効果	あまり効果なし	全く効果なし
事業数	5事業	39事業	3事業	1事業

*大きな効果:「畠町通り消雪道路」「市民プラザ」「旧金勇」「庁舎整備」「バスケミュージアム」

(3) 第2期ビジョン及び計画策定の基本的な考え方(方針に関する事務局たたき台)

①ビジョンの策定について

中心市街地ならではの特性を生かしたまちづくりを進めていくための方向性を示すものとして策定する。

- (1) 基本的な将来像やめざすまちづくりの方向は今後も大きく変わるものではないことから、基本的には第1期ビジョンを踏まえたものとする
- (2) この10年間に、中心市街地における店舗数や居住人口の減などの環境の変化が見られることや、将来的な人口減少や少子化、高齢化が予想されることから、これらの点を踏まえ見直す

○これまでの検討経緯

・第1期ビジョン(平成19年策定)で整理した中心市街地の特性

〈中心市街地の優位性〉

- ・市役所をはじめとする官公署、文化・スポーツ施設、福祉施設、教育施設等の公共施設や、銀行などの生活拠点が歩いて行ける範囲に集積
- ・融雪歩道施設等の基盤整備の進捗
- ・「能代の花火」や「大型七夕」、「役七夕」、「おなごりフェスティバル」などの集客力のある祭りやイベントの開催
- ・「バスケットの街のしろ」に訪れる人たちにとっての玄関口

〈能代や中心市街地の現状から導き出される優位性〉

- (1) 商業サービス・社会サービスなどの都市機能が既に一定程度集積し、高齢者も安心して、歩いて暮らせる便利な生活環境となりえる要素が整っている
- (2) 豊かな自然環境、木材や風力などの環境資源や環境問題に対する市民意識の高さなど、環境に対する取り組みを可能とする素材が既にある
- (3) バスケットの街で有名な活動的で健康的なイメージがある

〈第1期ビジョンの将来像と基本的な方針〉

将来像 「元気実感 のしろ 街ぐらし」

- 高齢者も若者も便利で楽しい住みよい街
- 市内外の人が活発に行き交い様々な交流ができる街
- 多彩な魅力あふれる商業サービスを享受できる街

・第1期計画(平成20年策定)の基本方針

〈基本方針-1〉街なか生活を楽しむ

「高齢者も若者も便利で楽しい住みよい街」となるよう、徒歩圏内における日常的に身近で福祉・医療、公共サービスが享受できる都市機能の集積を図り、良質な住宅整備とともに地域活動の活発なコミュニティづくりを進める。

また、冬季にも安心して安全に歩け緑に包まれて快適に歩くことができる歩行空間の形成を図る。

さらに、身近な生活の中で、スポーツや文化活動等を気軽に楽しめる環境づくりを進める。

〈基本方針-2〉 交流の文化を育てる

「市内外の人が活発に行き交い様々な交流ができる街」となるよう、能代山本地域の核として多様な都市機能の集積を図りながら、市内外の人、モノ、情報、産業が活発に交流する場を創出する。

また、能代市独自の特色を活かして、市民も企業も来訪者も一緒になって、街ぐるみで楽しめる祭りやイベントに取り組み、市民が中心となって開催・運営する環境づくりを進める。

〈基本方針-3〉 魅力ある商業空間を創る

「多彩な魅力あふれる商業サービスを享受できる街」となるよう、中心市街地の既存商店の経営改善を促進し、顧客サービスやイベント等の共同事業に取り組むなど商店街活動の活発化を図る。

また、空き店舗の活用や再開発等により、不足業種や新たなテナントの誘致・導入を促進するとともに、新たなビジネス展開を支援する環境づくりを進める。

○第2次能代市総合計画（平成29年）での中心市街地活性化関連施策の位置づけ

政策大綱3 豊かで活力あるまち

(2)雇用とにぎわいを生み出す商工業

○商店街に人が集まり、交流や賑わいが生まれ、街に活気があること

政策大綱4 安心で暮らしやすいまち

(5)調和のとれた有効な土地利活用

○それぞれの地域が持つ資源や特性が活かされ、この地域に合った良好な都市形成が進むこと。

○中心市街地の定住促進や交流人口の増加により、人が集まり活気があること。

○国の「中心市街地の活性化を図るための基本的な方針」（平成30年3月30日改正）より抜粋

第1章 1 中心市街地の活性化の意義

活性化された中心市街地は、

①商業、公共サービス等の多様な都市機能が集積し、住民や事業者へのまとまった便益を提供できること。

②多様な都市機能が身近に備わっていることから、高齢者等にも暮らしやすい生活環境を提供できること。

③公共交通ネットワークの拠点として整備されていることを含め既存の都市ストックが確保されているとともに、歴史的・文化的背景等と相まって、地域の核として機能できること。

④商工業者その他の事業者や各層の消費者が近接し、相互に交流することによって効率的な経済活動を支える基盤としての役割を果たすことができること。

⑤過去の投資の蓄積を活用しつつ、各種の投資を集中することによって、投資の効率性が確保できること。

⑥コンパクトなまちづくりが、地球温暖化対策に資するなど、環境負荷の小さなまちづくりにもつながること。

などから、各地域ひいては我が国全体の発展に重要な役割を果たすことが期待される。

2 協議会・分科会について

・昨年度まで、分科会を1つ（全体戦略分科会）置き計画後期計画の中間検証を行っている。

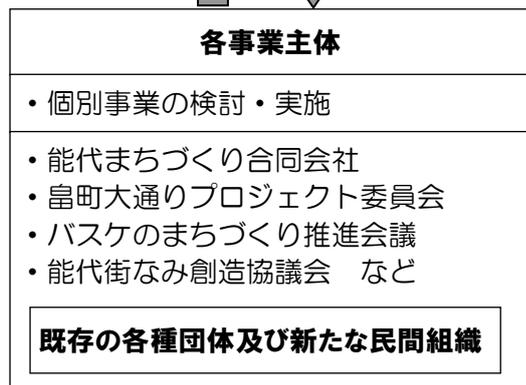
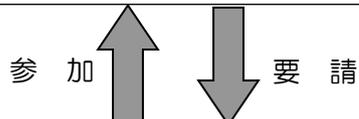
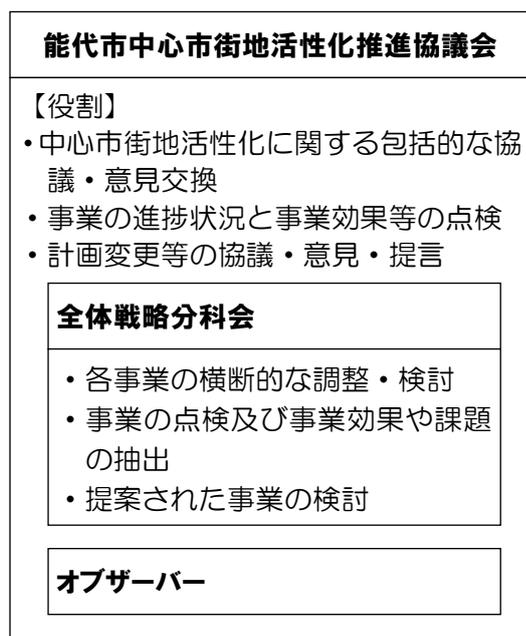
○今年度の進め方についての事務局案

- ①全体戦略分科会において「新しいビジョン」についての検討を進める
- ②上記と同時に各種調査を実施
- ③分科会での新ビジョンの検討と各種調査結果をもとに協議会で新ビジョンについて協議し、9月末頃を目途に新ビジョンを決定する
- ④新ビジョンの視点・考え方をもとに、後期計画の検証を行い、今後の課題・問題点のあぶりだしを行う
- ⑤課題・問題点や各種調査の結果、中心市街地に関する施策の「満足度・重要度の評価」を踏まえ、2期計画事業の検討を進める（9月～12月）

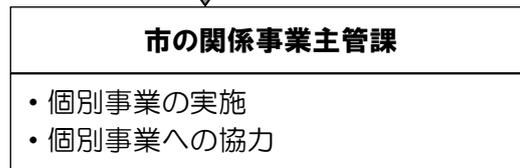
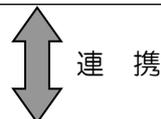
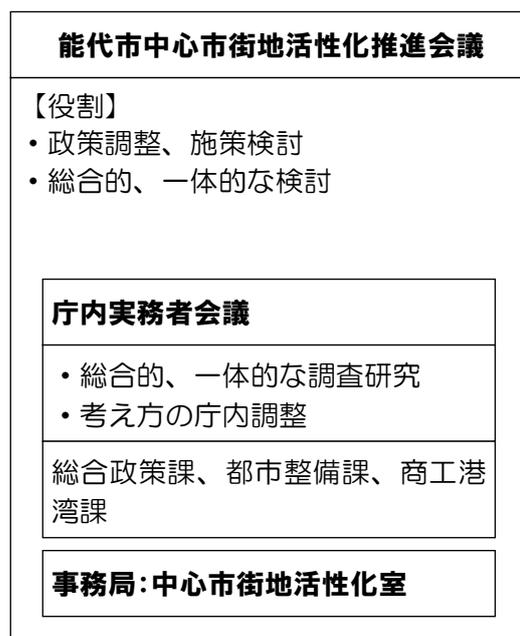
※協議の進行によっては、分科会の新設・改組（後期計画検証分科会・2期計画事業検討分科会、など）も視野に入れて検討し、協議会全体で意見を共有しながら進める。

参考：中心市街地活性化推進協議会と市の体制（後期計画）

<民間>



<行政>



3 市民意向調査等の実施について

①市民意向調査（7月～9月）

- ・市民2,000人（無作為抽出）を対象にアンケート調査を実施。
- ・調査項目案

居住区域、中心市街地への来訪目的と頻度、交通手段

中心市街地活性化施策に関する満足度・重要度について

北高跡地等の地活用について、今後のまちづくりの方向性について 等

※従来の調査項目に加え、中心市街地に関する施策の「満足度・重要度の評価」について調査する。これにより、事業の必要性や優先度について詳細に分析することができる。

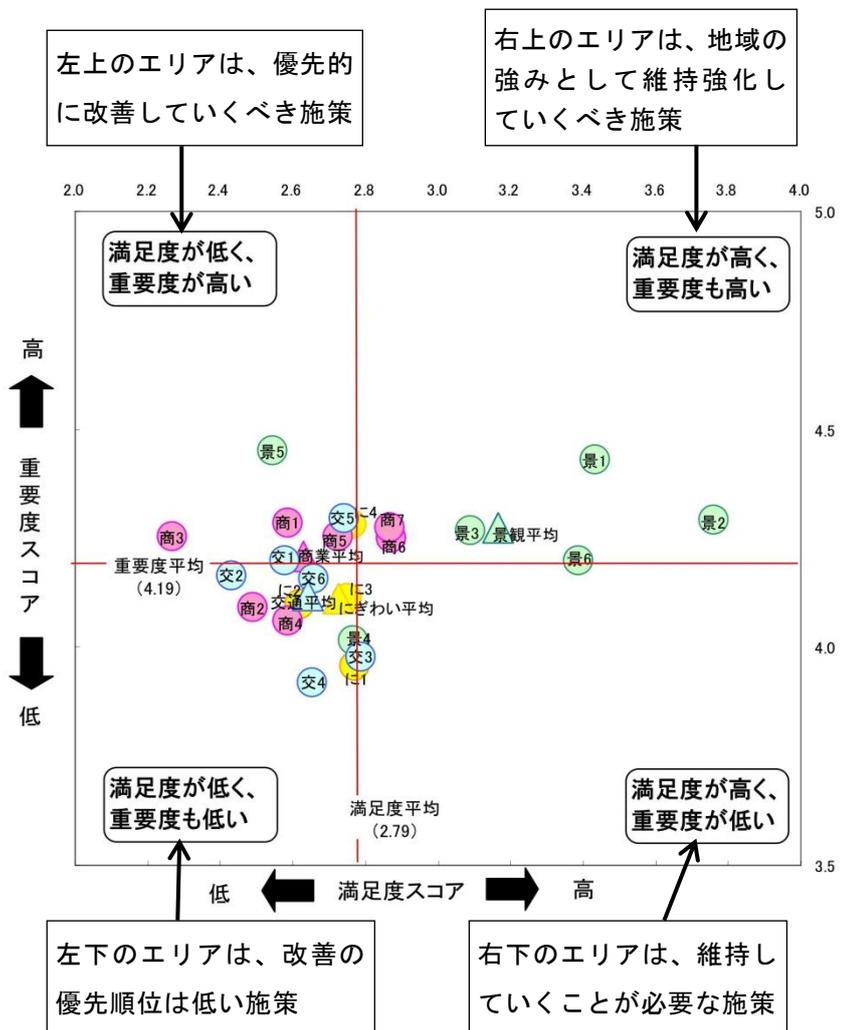
※宮崎市の事例 中心市街地市民満足度調査

コード	にぎわい等	満足度スコア	重要度スコア
①	イベントや文化活動を行っている活気のある街	2.77	3.96
②	新しい発見や感動とときめきが感じられる楽しい街	2.62	4.10
③	文化的な潤いがあり親しみやすく愛着のもてる街	2.75	4.11
④	宮崎の「顔」として誇りをもてる街	2.76	4.28
	平均	2.73	4.11
	前年度平均	2.68	4.22
	前年比	0.05	-0.11

コード	景観等	満足度スコア	重要度スコア
①	街並みがきれいでごみのポイ捨てがない美しい街	3.43	4.43
②	花や緑に彩られた快適な街	3.76	4.29
③	生活するのに便利な街	3.09	4.27
④	人が集まり、交流できる場がある街	2.77	4.01
⑤	地震や火災に強い街	2.55	4.45
⑥	住みたい街、又は住み続けたい街	3.39	4.20
	平均	3.16	4.28
	前年度平均	3.24	4.49
	前年比	-0.08	-0.21

コード	商業等	満足度スコア	重要度スコア
①	だれもが働きたくなるような魅力ある街	2.59	4.28
②	新しいビジネスを起こすチャンスがある街	2.49	4.09
③	魅力的な店舗が多い街	2.27	4.25
④	共通駐車券などのサービスが受けられる街	2.59	4.06
⑤	楽しい時間を過ごせる街	2.73	4.25
⑥	気軽に立ち寄れる親しみやすい街	2.87	4.25
⑦	事業者や事業者が協力、活性化に取組んでいる街	2.87	4.27

コード	交通等	満足度スコア	重要度スコア
①	様々な交通手段で出かけられる街	2.58	4.20
②	バスや鉄道で出かけるのに便利な街	2.43	4.16
③	自家用車で出かけるのに便利な街	2.79	3.98
④	円滑かつ快適に移動できる街	2.66	3.92
⑤	高齢者・障害者等にとって安全に移動できる街	2.74	4.29
⑥	公共交通機関の利用促進などで環境に優しい街	2.66	4.16
	平均	2.64	4.12
	前年度平均	2.77	4.44
	前年比	-0.13	-0.32



能代市で実施している市民意向調査では各種施策の満足度についてのみ調査しているが、今年度は重要度についても調査して「満足度・重要度」の分析を行い、施策や事業の検討の際に活用したい。

②中心市街地商業者意向調査（7月～9月）

- ・商店街の150店舗を対象にアンケート調査を実施。
- ・調査項目案
業種、店舗と住居について、現在の経営課題、後継者の有無
北高跡地等の地活用について、今後のまちづくりの方向性について 等

③中心市街地来街者意向調査（8月（天空の不夜城））

- ・イベント（天空の不夜城）に訪れた方を対象に、街頭で聞き取り調査。
- ・調査項目案
来訪の目的、交通手段、宿泊の有無、中心市街地についての要望 等

④中心市街地歩行者自転車通行料調査（11月（調査回数を増やす方向で検討））

- ・中心市街地重点区域内の10箇所で、歩行者・自転車数を方向別、時間帯別、年齢別に集計。
- ・従来の調査地点に加えて北高跡地周辺を追加する方向で検討。
- ・調査時期及び回数についても増やす方向で検討中。

⑤中心市街地大規模未利用地現況調査及び利活用意向調査（7月～9月）

- ・北高跡地等、中心市街地で利用されていない地区へ導入が考えられる機能を検討し、これらに関する各分野の民間事業者に対する利活用の意向を調査。
- ・事業検討に向けて、市場性の有無や活用アイデアを把握する。

4 今後のスケジュールについて

- 7月23日 平成30年度第1回協議会開催
- 7月～9月 各種調査実施（概ね9月までに結果まとめ）
協議会・分科会、庁内会議でビジョン・後期計画検証について検討・協議
- 9月～12月 協議会・分科会、庁内会議で事業及び2期計画素案について検討・協議
- 1月 2期計画素案についてパブリックコメント等を実施
- 2月 パブリックコメント結果等を踏まえ2期計画全体に関するまとめの協議
- 3月 計画策定

※8月から12月にかけて、協議会・分科会を集中的に開催することになります。

参考 【中心市街地活性化計画の全国事例】 基本計画フォローアップ報告書(H26~28)より

(1) 効果があったとされる事例のまとめ

- ・核となるハード事業（市街地の再開発事業やマンション・商業施設の建設等）とそれによる集客力の向上に成功している。
- ・拠点施設の賑わいを市街地に誘導し、来街者をうまく回遊させている。

(2) 効果が少なかった・課題により進まなかった事例のまとめ

- ・大型店舗の進出による経済環境の変化や、地権者の同意が得られない、資金繰りが困難になる等の理由で核となるハード事業が上手く展開できていない。
- ・事業の実施主体となるまちづくり会社や商店街が、準備不足や資金問題等により上手く機能できない。
- ・一部地域の賑わいを市街地に誘導できていない（回遊性を確保できない）。
- ・市民が中心市街地活性化の事業に参画する意識を醸成できていない。

(3) コンセプト事例のまとめ

- ・「にぎわい」「周遊回遊」「居住支援」

(1) 効果があったとされる事例

①北海道旭川市（人口34万人、人口減少傾向）

- ・観光情報センターを観光案内・バス待合・飲食等の機能を持った施設として駅前に移設したことで利用者数が増加。

②秋田市（人口31万人、人口減少傾向）

- ・出店にかかる経費の一部補助のほか、街なかに出店する場合の資金について利子補給率を上乘せして融資あっせんを行い、空き店舗率を改善。

③長崎県大村市（人口9万5千人、人口増加傾向）

- ・大型商業施設の開業や分譲マンション等の整備に加え、市民プラザ等の交流施設や公園等の多様なイベントが開催可能なスペースを整備し、歩行者通行量が増加。

④大仙市（人口8万2千人、人口減少傾向）

- ・市街地再開発事業により総合病院が中心市街地に移転し来街者が増加したことに加え、バスターミナルの再整備により交通の利便性が向上し回遊性が高まった。商店街でも様々なイベントを実施。

⑤京都府福知山市（人口7万8千人、人口減少傾向）

- ・観光案内所でイベント情報の発信や市内観光施設との連携・情報提供を進めることで来街者を市街地へ誘導。

⑥大分県豊後高田市（人口2万2千人、人口減少傾向）

- ・郊外にあったデイサービス事業を市街地に整備した高齢者交流施設で実施。さらにこの施設に全世代向けのコミュニティカフェを開設したほか、落語会・演劇等の各種催しを商店街のイベントと同日開催することで施設利用者の増加と商店街の回遊性の向上に繋がった。

(2) 効果が少なかった・課題により進まなかった事例

①長野県長野市（人口38万人、人口減少傾向）

- ・市街地の店舗の老朽化が進み資産価値が低下。民間資本の投資が行われず個店の売り上げも伸びない。
- ・長野駅前の整備事業が終了し駅前は賑わっているが市街地への回遊性の向上にはつながっていない。
- ・今後の核となるハード事業が具体化せず、当面の間は計画の認定申請を保留。

②山形県鶴岡市（人口12万7千人、人口減少傾向）

- ・観光施設が複数オープンし観光客は増えたが、市街地での道路整備事業が長期化し

て交通事情が悪化し来街者が減少。地権者や商店組合員との事業調整に時間を要し、事業規模や予算状況等の計画見直しを余儀なくされた。

- ・民間主体の事業では採算性や合意形成に問題があり成果を上げられなかった。
- ・中心市街地活性化の取組に対する市民の関心が低かった。

③大分県佐伯市（人口7万人、人口減少傾向）

- ・再開発事業を計画していたが、区画整理の同意取得や資金計画の確実性を高めるための作業に時間を要したため計画期間内の完成が見込めなくなり、事業計画を白紙に戻した。
- ・主要施策であった再開発事業が白紙となったことで中心市街地の衰退イメージが強まった。

④佐賀県小城市（人口4万5千人、人口減少傾向）

- ・中心市街地に近い大型店舗が閉店したため大型商業施設拡充整備事業で大型商業施設を整備したが、その後大型店舗が新装開店したため中活計画に基づき整備した大型商業施設の売り上げが減少。
- ・まちづくり会社による事業が国の補助金の廃止により実施できなくなった。

(3) コンセプト事例

①兵庫県明石市（人口30万1千人、人口増加傾向）

「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し賑わいあふれるまちへ

1. 通過点ではなく日常的に時を過ごせる中心市街地をつくる
2. 訪れた人の期待感が高まり回遊したいと思えるような中心市街地をつくる

②佐賀県唐津市（人口12万3千人、人口減少傾向）

歩きたくなる、住みたくなる、観たくなる城下町唐津

1. 都市機能の再生や交通ネットワークの強化。商店街事業の有機的連携による商業まちづくり
2. 都心居住支援や市民交流拠点形成による快適居住まちづくり
3. 城下町唐津としての歴史・文化を活かした観光まちづくり

③岐阜県高山市（人口8万8千人、人口減少傾向）

人が住み 人が訪れ にぎわいとやさしさにあふれるまち「飛驒高山」

1. 美しさと快適性が調和した「住みやすいまち」
2. 楽しさと利便性が充実した「にぎわいのあるまち」
3. ふれあいといきがいを大切にした「やさしさにあふれるまち」